

(93号)

中国シルク情勢 (2018年6月)

日 絹 連

5月15日に中国全国新聞紙「環球時報」を始めとする各大手メディアが、5月14日に毎日新聞が掲載した「皇居の養蚕、伝統継ぐ 皇后さま、雅子さまに説明」などを大きく報道した。皇室の養蚕の歴史や毎年行われている給桑養蚕行事、来年の新天皇ご誕生により、雅子さまが皇居の養蚕も継承していくという記事を紹介している。

シルクネットHPでは、三つの関連文章を発表し、日本伝統養蚕の国を挙げての事業を熱烈に議論された。中国は、日本をよく学ぶべきだと褒め称えた。



5月27日の夜、中国中央テレビ2チャンネル「財經」がシルク大手企業「達利」のシルク観光を報道した。シルク工業観光業と燃糸工場のAI無人化がシルク産業革命の未来をリードしていることを全国にアピールするために視聴率の高い時間帯に放映した。



<浙江省達利シルクテレビ番組画面>

<無人撚糸工場現場の監視液晶板>

生糸相場について、5月に入ってから中国各地の春繭収穫の情報が相次いで報道された。金繭ネット網では、5月2日から5月末までに今までにない13回と多い繭収穫の情報発信が行われ、各地の繭価格も紹介された。その間に4月末から2週間連続で生糸相場が暴落し、B類3~4Aが52万元/トン(2018.5.25渡し)から一時43万元/トン台まで下がった。5月21日から一転反発し45万元/トン台へ上がり、一日の上下幅が昨年より激しくなった。

5月の各地の繭価格を纏めると、以下の通りである。

1. 広西省5月1回、2回、3回目、宜州・蒙山などのB産地が52~60元/キロ、4回目は42~48元/キロとなった。
2. 広西省の環江と雲南省の金塘地区などは55~61元/キロとなった。
3. 四川省の涼山は52~53元/キロとなった。
4. 浙江省の桐郷・海寧・嘉興などは36~45元/キロとなった。(高温で繭が悪かった)
5. 浙江省の千島湖は60~62元/キロで、雄繭の最高値となった。
6. 江蘇省の南通・海安・塩城地区は61~62元/キロとなった。
7. 江蘇省の富安、山東省などは、まだ発表されていない。

代表的な地区の繭価格を計算すると、これからの生糸生産コスト自体が1キロ当たり、広西省の宜州、横県、蒙山などは52~53万元/トン(約71~73ドル/キロ)、広西省の環江県と雲南省は55~56万元/トン(約75~77ドル/キロ)、浙江省の千島湖と江蘇省の南通などは57~59万元/トン(約79~81ドル/キロ)となるのか、今後の動向を見ていく必要がある。

一方、海外の動向と生糸相場の下落により、中国国内の機屋も少し慎重感が広がっており、内外供給のバランスを見守っている様子で、嘉興と南寧両取引所の先物乱動が暫く続くか注意が必要である。



<浙江省千島湖農家買取り風景>



<江蘇省南通養蚕風景>